

加古川市立志方中学校 令和6年度 学校自己評価

A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない

	質問項目	評価	学校としての対応策
学習指導	1. 主体的・対話的で深い学びの視点での授業力向上の取組	A	・研修や研究授業を実施したり、他の先生の授業を見学する。 ・自主的にさまざまな研修会へ参加し、授業力向上に努める。
	2. 個性や能力に応じたきめ細かな指導	B	・教職員の言葉かけや生徒への対応の仕方についての研修を行う。 ・少人数で学習ができる環境をより整え、習熟度によるグループ編成などを考えて指導する。 ・学習の個別最適化を目指し、ICT教材を効率よく活用する。 ・生徒に授業の振り返りなどを記録させることで、個別にフィードバックを行えるようにする。
	3. 兵庫型学習システムや複数指導などの有効性	A	・教師一人ひとりの指導力・実践力を向上させる研修を行い、複数指導の有効性を高める。
	4. 基本的な学習態度、学ぶ姿勢の育成	A	・教師の授業実践力をより一層高めていく。 ・授業の始業と終業の時間を守るとともに、授業規律を確立する。
道徳教育・人権教育	5. 「道徳の時間」の指導法の研修・工夫	B	・道徳の授業の持ち方について再検討を行ったり、教師相互による授業見学や外部講師を招いての研修などを行うなど、授業力の向上を図る。
	6. 差別解消の課題を明確にした計画的、系統的な指導の実践	A	・視聴覚教材を効果的に活用し、生徒に考えさせ、心に訴えかけられるよう、授業の構成や内容を検討する。
	7. いじめや不合理的を許さない心の育成	A	・人権学習の授業計画を立てて、しっかりと話し合いができる環境をつくる。 ・引き続き教職員の人権意識の向上に恒常的に努める。
体育・食育・防災教育	8. 体の育成への援助・工夫	A	・部活動をはじめとして、体力の向上につながる機会を積極的に設ける。
	9. 食育に関する指導の充実	A	・食育に関する学習をすすめ、食事の重要性を理解させ、食への感謝の気持ちを養う。
	10. 防災教育への指導	A	・防災について、生徒が身近なことだと捉えられるように、クラスや生徒会活動などで、防災対策について話し合う機会を設ける。
生徒指導	11. 内面的理解を基盤に、心にひびく指導と教育相談の充実	A	・生徒の気持ちに一層寄り添えるように、教職員の言葉かけを見直したり、生徒理解を深めるための研修を行う。また、教育相談の時間を有効に活用していく。
	12. 学校生活適応推進事業(アセス)の活用	A	・アセス実施後に学年及び学校全体での検討会を実施し、生徒の様子を把握し、生徒指導や生活指導に活かせるようにする。
	13. 通学指導などの安全教育の推進	A	・交通ルールを定期的に再確認し、自転車の乗り方や通学マナーのより一層の向上につなげる。
	14. 挨拶など地域ぐるみで取り組む健全な生徒の育成	A	・あいさつ練習を継続するとともに、地域・家庭と連携した教育活動を継続していく。
生徒会	15. 生徒会活動の活性化	A	・生徒会担当教員だけでなく、教職員全体で生徒会活動が充実できるように、生徒をサポートできる体制をより一層充実させる。
研究と修養	16. 信頼される教職員をめざし、研修に努めている	A	・研修の時間を計画的に確保したり、教職員にアンケートをとるなどし、研修内容を充実させ教育公務員としての心構えを自覚できるように恒常的に努める。
	17. 勤務時間の適正化・業務改善を推進し、一人一人の生徒に向き合う環境作り	B	・落ち着いて学級が見守ることができるように職員朝礼の持ち方などを検討していく。 ・校務のDX化をすすめて、業務に優先順位をつけ、生徒のことを一番に考えられる職場の環境改善をさらに進める。
特別支援教育	18. 合理的配慮に基づいた指導法の工夫	A	・配慮が必要な生徒だけでなく、誰もが過ごしやすい環境づくり、指導方法の検討を行う。
キャリア教育	19. キャリア教育の推進	A	・キャリアノートやキャリアパスポートを活用し、引き続きキャリア教育の推進体制を充実させていく。
地域との関わり	20. 学校運営協議会を中心とした家庭・地域との連携	A	・スクリーンなどを効果的に利用して、家庭に情報を発信していく。また、ホームページやブログなどで家庭地域への情報発信に努める。 ・学校運営協議会と連携し、地域の人材や教材を活用できる体制づくりをより一層進める。